SNS 連動企画第 1 弾　「リレー投稿」2020 年 2 月度テーマ『キャリア形成』第 2 週

『働くことは生きること』～キャリアとキャリアコンサルタントについての一考察～

1986（昭和 61）年卒業　青山　潤子

大学卒業以来、システムエンジニアとして、また、人材育成担当者として、新人研修などの主催運営などを担当しながら、大手国内 IT 企業→外資系コンサルタント企業のｱｳﾄｿｰｼﾝｸﾞ部門→総合化学メーカーの IT 部門で合計 30 年働き続けた。50 代前半で、なにか目標や、やりたいことに向かって元気なうちにひとり働き方改革を試みたが、2 年のフリーランスを経て、今国家資格キャリアコンサルタントにかかわる特定非営利活動法人で、またフルタイムで働き始めて 2 年を迎える。

小樽の実家を大学卒業と同時に離れ、一人暮らし、結婚、出産、育児、転職、親の介護など、これまでの自分の人生を振り返ると、常に仕事は、自分らしく生きることの支えであったし、今もそう思いながら働いている。

そんな自分のキャリアを振り返るチャンスを昨年思いがけずいただくことができた。『11 月は勤労感謝の日がある。一年に一度は、キャリアについて考えよう』と、キャリアマンスという活動の立ち上げにかかわっている。準備期間 1 年をかけて、昨年 11 月に港区のご協力を得て、区立の施設を借り切り、業界団体横断で、『キャリア』や、キャリアコンサルタントを含むキャリア支援職というものを社会に浸透させるという目的に向かってイベントを行ったり、HP や SNS からの発信を行ったりするという 16 名の実行委員会の中で、活動の代表兼事務局を任された。その際に、『キャリアとはなにか？』『キャリアコンサルタントは社会に何で貢献できるか』などを、真剣に考え、対話する時間を持つことができた。わたしはキャリアコンサルタント資格を自ら保有してはいないが、この仕事は、働く人々に自律的なキャリア形成の意識が芽生えるようにすべての人が充実した職業生活、人生を実現できるように、すべての人を支援する役割をもっていることを知ることができた。

今思えば、退職前にプロのキャリアコンサルタントに相談していたら、違った今があるかもしれない。後悔はしていないが、この仕事に携わって、キャリアコンサルタントの人々にもっと相談したり、気軽に支援を受けられるように日本の環境を変えていきたい。そんな思いで、日々、働いている。

もし、将来やキャリアに迷ったら、キャリアコンサルタントという仕事のプロがいることを思い出してほしい。